# Ⅱ．子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー事業の概要

「子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレー」事業は、子ども虐待防止啓発活動を目的に、オレンジ色のたすきをリレーでつなぐ活動を実施する事業である。

子ども虐待防止は、多くの機関・分野の方々の協働と、市民の方々の理解と協力が不可欠である。子ども虐待防止の象徴であるオレンジリボンをたすきに仕立て、これをリレーすることにより、子ども虐待防止への市民の関心を高めることと、機関・分野協働の大切さを訴えるものである。また、毎年、たすきリレーのゴール会場となる会場や、他中継所では、子ども虐待防止をアピールするちらしや手作りのオレンジリボンを配布するなど啓発キャンペーン活動を行う。

（第１回）

本事業は平成１９年に立ちあがり、１１月２３日～２４日の２日間かけて、第１回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーを開催した。また、１１月２４日には、横浜市のみなとみらい地区の日本丸メモリアルパーク、読売新聞本社前におけるキャンペーン活動を行った。

（第２回）

続いて、平成２０年１１月９日（日）には第２回子ども虐待防止オレンジリボンたすきリレーを開催した。湘南コース、都心コースに分かれ、グランモール公園（横浜市）にゴールし、ゴール会場では啓発活動も行った。

（第３回）

第３回は、平成２１年１１月８日（日）に開催し、前回に続き湘南・都心コースに分かれ実施した。同日開催であった湘南国際マラソンとたすきリレーの湘南1区はコースを重ね、そして日本丸メモリアルパークにゴールした。第３回はゴール会場だけでなく東京タワーにおいても啓発活動を行い、少しずつ活動が拡がってきていることを実感した回であった。

（第４回）

第４回は、横浜においてAPEC開催時期と重ったことから、１１月ではなく平成２２年１０月３１日（日）に開催し、湘南・都心コースに分かれてオレンジのたすきをつないだ。都心コースは渋谷ハチ公からスタートし、ハチ公銅像にオレンジたすきをかけて啓発活動を行った。また、横浜市中区にある山下公園がゴール会場となり、会場ではステージやブースを設けて啓発活動を行い、一般の観光客にも子ども虐待防止の大切さを訴えた。APECを避けて１０月に行ったのだが、１１月からの推進月間の呼びかけの落とし的イベントとして有益である実感を得、全国でたすきリレーを実施していただく起点となる意味でも、１０月下旬の開催が好ましいと判断し、以降１０月下旬の開催が恒例となった。

（第５回）

第５回は、平成２３年１０月３０0日（日）に開催し、第３のコースとして新たに鎌倉・三浦コースが設立された。鎌倉高徳院よりスタートし、鶴岡八幡宮や関東学院大学などを中継し、ゴールを目指した。湘南コース・都心コース・鎌倉三浦コースを合わせた総ランナー数は３４３名となり、多くの方がオレンジのたすきをつないだ。

（第６回）

第６回は、平成２４年１０月２８日（日）に開催した。湘南／都心／鎌倉・三浦・横須賀コースの３コースを総勢４７９名のランナーがたすきをつないだ。ゴール会場はみなとみらい地区の赤レンガ倉庫近くの新港中央広場に設け、１日かけて啓発キャンペーンも行った。

（第７回）

第７回は、平成２５年１０月２７日（日）に開催した。前年度と同じく湘南／都心／鎌倉・三浦・横須賀コースの３コースを総勢５１０名のランナーがたすきをつないだ。ゴール会場の山下公園では、子どもや家族も楽しめるブースを設営するなど過去最大のブース数となった。

（第８回）

第８回は、平成２６年１０月２６日（日）に開催した。参加したランナー数は前年並みの、５０６名が走った。天候もよく、ゴール会場は過去最大の人たちが訪れ、にぎわった。また実行委員の一人である井上幸夫さんが、全国にたすきリレーの実施を呼びかけるため、この日から日本縦断の1万キロランのスタートを切った。

（第９回）

第９回は、平成２７年１０月２５日（日）に開催した。この年のランナーは６９９名と前年度を大幅に上回った。前年度、日本縦断の１万キロランのスタートをきった井上さんが無事横浜に戻られ、たすきリレーランナーとともにゴールテープを切った。

（第１０回）

第１０回は、平成２８年１０月３０日（日）に開催した。第１０回という節目を迎え、メモリアルイベントとなった。たすきリレーでは川崎コースを新設し、総勢６１６名のランナーがたすきをつないだ他、ゴール会場の山下公園では家族向けのブースも多数設置され、多くの一般市民が訪れた。また、東日本大震災復興支援として多くの方のメッセージを募ってきた「祈りのFriendshipキルト・オレンジのたすき」を鎌倉高徳院へ奉納した。さらに、全国１３ヶ所に拡がっていた各地の実行委員会に声をかけ、賛同を得て、「オレンジリボンたすきリレー全国ネットワーク」として連携組織を立ち上げた。

（第１１回）

第１１回は、平成２９年１１月１２日（日）に開催した。記念の１０回大会を終え、新たなスタートを切ることとなった。例年同様、全５箇所のスタート地点から横浜市の山下公園をゴールとする３つのコース（都心・川崎コース、湘南コース、鎌倉・三浦・横須賀コース）で構成された。総勢６３９名のランナーが参加した。はじめて虐待防止推進月間である１１月に開催したこともあってか、NHK初め多くメディアが取材に訪れた。

（第１２回）

第１２回は、平成３０年１１月１１日（日）に開催した。山下公園をゴールとし、延べ７０１名のランナーが参加した。年々ランナー参加者が増加し、しかも児童福祉関係でない方の参加が増えている。児童虐待への市民の関心が高まっていることを感じた回であった。

（第１３回）

第１３回は、令和元年１０月２７日（日）に開催した。湘南コースのランナー参加者は減少し、延べ６１８名のランナーになったもののゴール会場をグランモールになったことで子どもたちが多く集まりました。

（第１４回）

第１４回は、新型コロナウイルス感染拡大のために２年間の中止を経ながら、令和４年１０月２３日（日）に開催した。感染拡大防止のためにランナーの絞り込みなど人数が増え過ぎないように制限するなどの配慮し、湘南コースと都心・川崎コース及び横浜南部コースの３つのコースで同一ゴール（象の鼻パーク）に向けて、延べ２８７名のランナーが参加した。

本事業の実行委員会は、子どもの虹情報研修センターが事務局となり、委員会は児童福祉施設、児童相談所、社会福祉協議会など児童福祉関係有志のメンバーで構成されている。